

別冊 *Lightning*

for tasty life
エイムック1584
別冊Lightning
Vol.54

ヴィンテージオート

VINTAGE AUTO

14

気になる外国旧車
オールドBMWがカッコいい。



[人気企画]
DATSUN BOYS!
USA REPORT

[巻頭特集]

やっぱりディーブだ! フェアレディZ

A POSSIBILITY OF FAIRLADY Z

telly Sahara



上 エンジンはRB25DET型に換装。有り余るターボパワーでZを魅惑の領域まで一気に加速させる。下 ダッシュ周りはECR33スカイラインから流用。とんでもないモディファイをサラリとやってのけるのがロッキータートなのだ。



エンジンだけではない インターフェイスの見直しが また新しい領域を生んだ

フェアレディZの限りない可能性を追求する熱いコンストラクターの一人
ロッキータート代表の渡辺氏が、また1台素晴らしいS31を仕上げた
大人が真剣に楽しめるワングレード上のヴィンテージという基本コンセプトを踏襲し
今回はなんとハイパーエンジンにプラスしてダッシュまでもをコンバートしてしまった!

text/K.Yamazaki 山崎和彦
photo/A.Hirano 平野 陽
取材協力/ロッキータート phone0564-58-7080



Vintage Auto Vol. 145 Special Issue
A POSSIBILITY OF FAIRLADY Z

owner/Rocky Auto

1976 NISSAN FAIRLADY Z



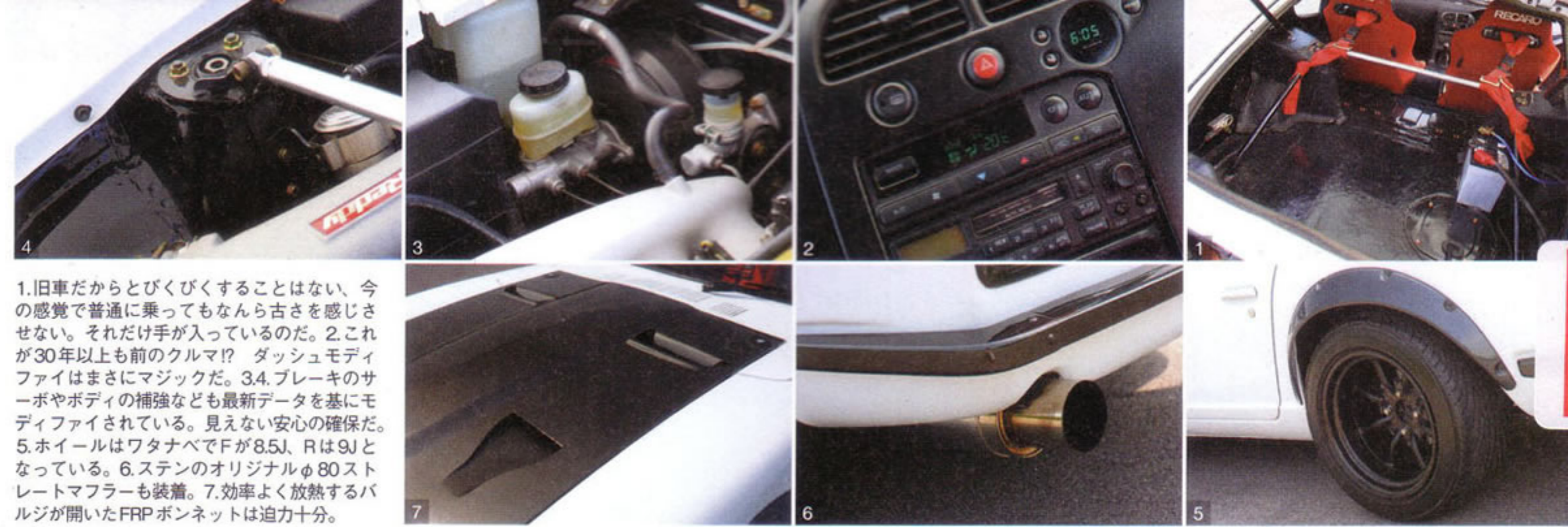
1976 NISSAN FAIRLADY Z

owner/Rocky Auto

Style **6**



旧車には乗ってみたいけれど、いろんなリスクを考えるとやはり躊躇してしまう……。そう思っている人は是非、一度このクルマに試乗することをお薦めしたい。ドアを開けた瞬間から、ただのレストア車でないことがわかるはずだ。見るもの、触るもの全てが旧いけれど新鮮！無限のポテンシャルを証明する1台だ。車両本体価格789万円。



1.旧車だからとびくびくすることはない、今の感覚で普通に乗ってもなんら古さを感じさせない。それだけ手が入っているのだ。2.これが30年以上も前のクルマ!? ダッシュモディファイはまさにマジックだ。3.4.ブレーキのサーボやボディの補強なども最新データを基にモディファイされている。見えない安心の確保だ。5.ホイールはワタナベでFが8.5J、Rは9Jとなっている。6.ステンのオリジナルφ80ストレートマフラーも装着。7.効率よく放熱するバルジが開いたFRPボンネットは迫力十分。

旧車の魅力の大きな要素のひとつとして、デザインがある。最新のクルマは生産効率と低コスト化を追求し続けることで個性が失われ、その結果なんとも味のないものになってしまっている、といったクルマ好きの会話はよく耳にするものだ。しかし、いくらデザインが優れていてもクルマ本来としての機能が低かったのではそれはそれで問題だ。数台のクルマをTPOに合わせて乗れる恵まれた人は別だが、多くの一般ユーザーは趣味のクルマがそのまま普段の足にもなればいいな、と思っている。そんな現状の中で、一部の旧車ファンは時々こんなことを言う。「外観は昔のスタイルで、中身は今の素材や技術を駆使した新車があればいいよね」と。外観は510のデザインで、内容はマーチと同じ快適ラック仕様……といった具合だ。もちろんそれは叶わぬ夢。時代と共に変わる様々なレギュレーションが立ち上がり、そう簡単にはいかない。しかし発想を180度転換することで、そんな夢を実現させてしまった男がいる。本誌ではすっかりお馴染みとなった愛知県岡崎の老舗、ロッキータートの渡辺代表だ。

その発想は実にシンプル。新しいクルマを旧く見せるのではなく、古いクルマに新しい技術注入してあげば、ある段階を超えた時点でそれは新しいクルマとして付き合えるに違いない、というものだ。つまりこれまで行ってきたエンジンコンパトやオートエアコン、パワステ、パ

ワーウィンドウといった装備はもちろん、さらにもう一歩進めることでより理想に近いクルマになる、という考え方だ。そんな素敵な発想を渡辺氏は強烈な具体的モディファイによって実現させてしまった。それはS31にECR33スカラインの動力や足回りを移植するという既存のメニューに加え、なんとECR33のダッシュパネルまでも移植するという大胆なものだったのだ。

かくして完成した1台がご覧のZである。シートに座り軽くキーを捻ればRB25DETはいつも簡単に目覚め、真夏でもオートエアコンの値をセットしながらすぐに高速クルージングが可能。なんとも素晴らしい大人の演出に、ハンドルを握った者は皆舌を巻く。



大人のスポーツカーは上質なノスタルジックファイルで所有欲を刺激してくる

Vintage Auto Vol.14 Special Issue
A POSSIBILITY OF FAIRLADY



1.グリル内にドックと鎮座するインタークーラーは大容量のBCNR33GT-R用だ。2.トラストのグレッティサージタンクが眩しいエンジンルーム。RB25DETは適確なフューエルコントロールによって今どきのターボ車らしい素晴らしいトルクを発生する。最大の問題となる夏場の渋滞における熱の処理も、経験豊富なロッキーのノウハウによって見事に解決！それどころかオートエアコンをしっかり効かせての高速クルージングも難しくなることはないのだ。



STREET PROJECT



本プロジェクトのためにアラゴスタで特注したというスペシャルサスが組み込まれ、公道での走破性とスタビリティを追求した車高をセットしてある。今後さらにエンジンを煮詰めていきながら、綿密なサスセッティングを施すという、クルマのトータルパフォーマンスを左右する、大きなメニューが待っている。今後展開にご期待いただきたい。

それはまさにストリート最強の香り



1.2 まだまだこれから煮詰める、とはいえ現時点でマシンはどこからでもバビュッと加速するバケモノになっていた。もちろんハンドリングに不具合もない。つまり、ここからはかなり高度な領域ということ、楽しみだ。3. ステンのヘダースにも熱が入り、なんともマニアックな色に変身した。4. 公道最強は当然ながら安全面でも確保する。太いケーシングが頼もしい。5. サイドブレーキはこれ。ラインロックの容量で操作する。



どこからでも
モリモリ
立ち上がる!

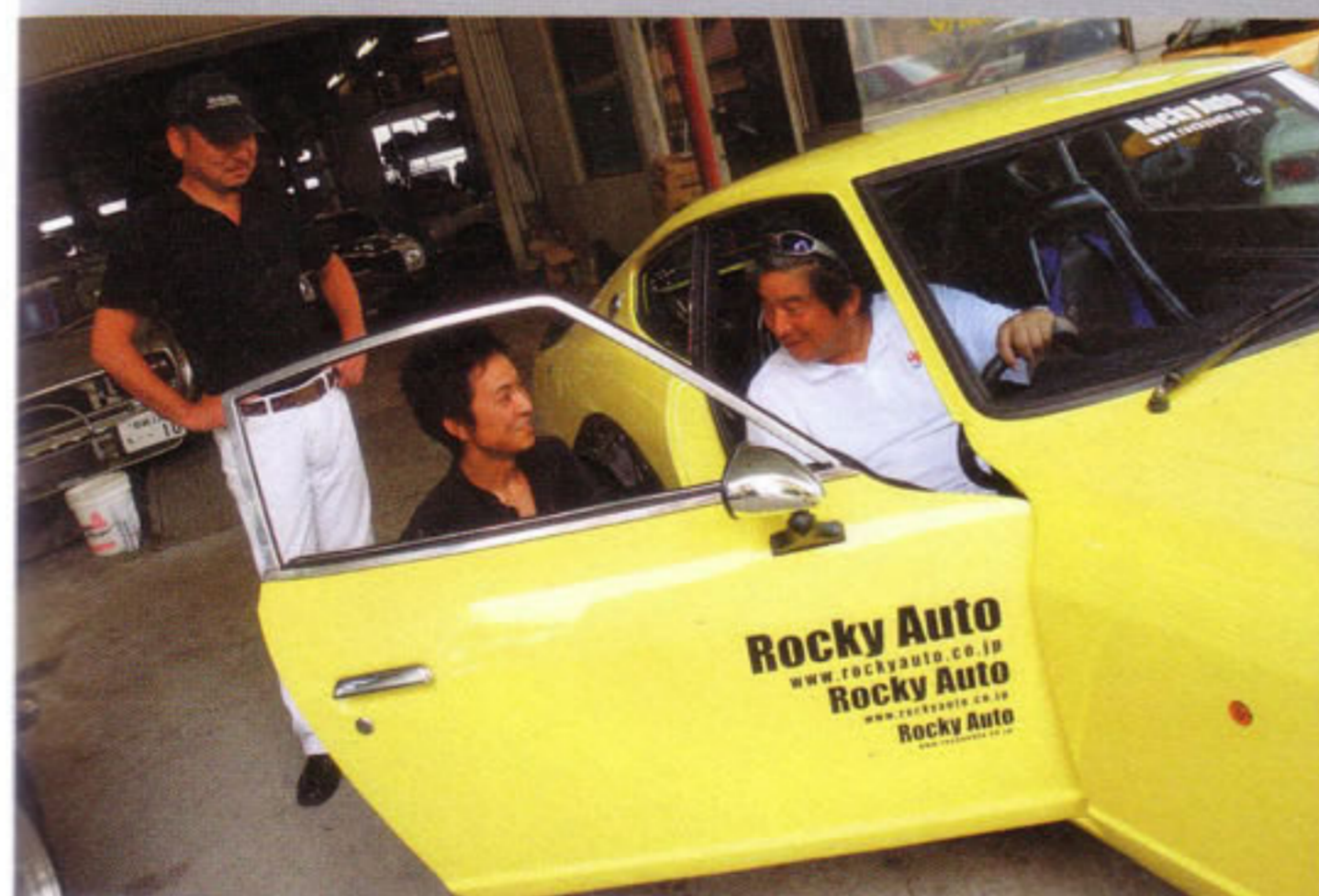
「慣らしますが、けっこう踏んでもらってかまいません」と、自信満々の渡辺氏の言葉を裏付けるような、研ぎ澄まされたメカニカルノイズが気持ちいい。見えてきた公道最強! これからさらに深いセッティングを施していく。Zトップ最高!

R B 30 E 改に R B 26 D E T T ヘッドを組み合わせ、同じく R B 26 用 6 連スロットルで武装、フュエルコントローラーは V プロ、排気は等長ステンヘダースと、NA で考えうる最強のメニューが用意され、確かな技術で組みあがったエンジンは、これまでに本コーナーでも紹介した徹底的に見直した車体に搭載された。外観こそ S 30 ではありますが、その中身は全く別モノと言ってもいいほど、濃い内容でモディファイされた車体は、渡辺氏をして「レースカーでもなかなかここまでではやりませんよ」と言わしめるもの。その大きなふたつの要素が合体し、文字通り最強のマシンとしていよいよファイナル、そう最終セッティングに段階に突入であります。乞うご期待!



SCENE 2

公道最強!
NAで目標380馬力!?
1973 DATSUN 240Z



記念すべき「火入れ式」の前に、向田メカニックからレクチャーを受ける、といっても難しいことは一切なし! 例によって簡単一発始動であります。

第7回

走ったぞ! なんというトルク なんという快感の巻

本コーナーとロッキーオートの夢のコラボ企画
Zトッププロジェクトがいよいよクライマックスを迎えようとしている
今回は遂に走った“公道最強”のリアルな様子をレポート!

text/K.Yamazaki 山崎和彦 photo/A.Hirano 平野陽
取材協力/ロッキーオートphone0564-58-7080

あえてNAで、公道を快適に走れる仕様で、それでもって最強と謳えるZを作ろう! と、声高らかに企画をスタートさせてからはや1年と数ヶ月。我がZトップカーが遂に公道を走り始めたのであります。
昨年の春、私が取材でロッキーオートを訪ねた時、代表の渡辺氏から「ワインテージオートが理想とするZを作ってみようよ!」という蜜よりもあまろいひと言が寄せられたことがプロジェクトをスタートさせるきっかけとなった。もちろん、もちろん公道最強を謳うからにはそれ相応の性能が必要であることは百も承知、既に渡辺氏の頭の中にはおおよそのプランが立っていたのであります。



純正のようにしっくり収まったRB30改のNA。まさかボンネットの中がこんな状況になっていたとは! 外観からはわからない過激なチューンにはほくそ笑む。